

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800128		
法人名	株式会社 だんらん		
事業所名	スローライフ汐見台		
所在地	静岡県牧之原市汐見台14-1		
自己評価作成日	令和4年7月13日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2295800128-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2295800128-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街に面し、静かでのどかな場所に面し、近くには小高い山の公園があり、季節の花々が咲き住民の散歩コースになっています。地域の避難場所にもなっていて安心して暮らせる施設です。認知症になっても思い出のある地域で、仲間と一緒に笑顔で暮らせるよう支援していきます。一人一人の思いや願いを受け入れ、出来る限り利用者様に沿った支援を行います。地域の病院と連携をとり、緊急時の対応に備えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

節分やえびす講など地域に伝わる時節の行事や味噌作り、旬の野菜を使った家庭料理にこだわり、リビングには常に利用者の隣で談笑する職員の姿があって、名が示す通りの「スローライフ」を支援している事業所です。地域行事や交流活動は依然としておこなえない状態ですが、開設当初より近隣から大根やトマト、ナス、キュウリなど新鮮な野菜の差し入れがあり、筍や蒾がお目見えした際には下ごしらえに張り切る利用者の生き生きした姿が見られ、コロナ禍にあっても変わらない地域とのつながりが活力の元となり、温かみのあるこの場所に在ることにより一層の有難さを感じています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識し努力している	朝礼での唱和を継続したことで、職員への周知が行き届く結果に結ばれており、コロナ禍での地域交流や不適切ケア防止への意識をさらに高め、その方策を浸透できるよう進めてゆきたいとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年に続き、地域の交流は行っていないが、防災訓練には地域住民と参加している	地域交流はおこなえない状態ですが、開設当初より近隣から新鮮な野菜の差し入れがあり、筍や蕨がお目見えした日には下ごしらえに張り切る利用者の姿が見られ、変わらないつながりに一層の有難さを感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェは引き続き、休んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面にて提出していたが、7月25日に開催する予定	2ヶ月ごとの書面開催でしたが、感染者数の動向をみながらメンバーに声をかけ、7月には2年ぶりに開催が叶っています。行政や地域代表、家族の出席があり、フェイスtoフェイスでの意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要がある場合には、相談窓口相談している	運営推進会議議事録を窓口まで届け、新型コロナウイルスワクチン接種や運営における疑問点等、都度指示を仰いでいます。実地指導における指摘事項には改善計画書を提出し、迅速な是正を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0宣言をしている施設です。利用者様の尊厳保持に努め、不適切ケア無を目指している	3ヶ月ごとに開催している身体拘束廃止委員会では、個別ケース検討とともに指針の見直しを通じてその意義を理解し、必要に応じて臨時会を招集して話し合い、拘束のないケアの実践につなげています。	適正な事業運営の観点からも、引き続き高い意識をもって身体的拘束等適正化に取り組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学びの機会を持つことがなかなか難しい状況であるが、虐待を見逃すことがないように、身体、精神状態には気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回利用者様の中に権利擁護を使用しなくてはならない方がいるため、市の職員に相談し、権利擁護の制度の理解を深めた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に十分な説明をしている。また、その都度、質問等があれば伺っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を伺い、要望があれば日頃の介護に反映させている	写真やコメントを増やした事業所通信を2ヶ月ごとに発行し、暮らしぶりを家族に伝えています。面会や往来の制限はあるものの、必要物品の受け渡しや受診支援の折が貴重な意見聴取の場となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員からの意見や提案を聞いている。反映できることは、行っている	毎月の全体会議とその後のカンファレンスでも活発な意見が出されています。年間研修にも職員意見を反映して認知症ケアや介護技術講習会を企画し、知識を深め根拠をもったケアをおこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努める様、努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の希望がある者には、会社が積極的に協力し、希望する研修に参加させている 毎月、介護技術の内部研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6月より「耳より会」を開催		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係が早期に作られるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や不信感を持たない様、初期に信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の思いを汲み取り、共に生活する者として関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為なし(ストレスが強い場合は、馴染みの場所に同行する時もあり)	季節の衣替えや墓参り等、家族の協力によって心の平穏が保たれる人もいます。手慣れた野菜の下ごしらえ、洗い物や洗濯物干しなど、介護計画書に組み入れてその人らしさを支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中、関係性を把握し、その都度臨機応変に対応し、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が相談等にみえたら、必要に応じ相談や支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係の構築に努めている 思いを把握する努力は、いつも職員同志が相談し、できる限り実施している	飲み物の提供にも「何がいいですか」「冷たい物、温かい物、どちらにしますか」と本人の意志を確認するとともに、意向の把握が困難な場合は24時間シートを活用して言動を観察し、思いを掴んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所情報にて把握したり、不明時はケアマネに確認しているが、不足の部分は家族に伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が趣味活動やお手伝いなどできる限り能力を生かし、心身体力の状態等毎日把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人をよく観察し、課題やケアについての話し合いを職員同志で抽出しモニタリングしている	計画作成担当がカンファレンスで職員意見を聞き取り介護計画を作成しています。「不穏時は訴えを傾聴しお灸を～」 「外出で気分転換を～」等、その人が笑顔で共同生活を営める計画が盛り込まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録は個別に記録し、問題点は話し合い、気づきや情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援、ボランティア団体の把握はしているがコロナ禍の為できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得された、かかりつけ医に受診されている	全員がかかりつけ医を継続し、バイタル表や経過記録を手渡して事業所での様子を伝え、家族が受診支援しています。週に一度訪問看護事業所より看護師の来所があり、健康管理が成されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面談はできないが、電話、Fax等で情報を交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、十分な話し合いと説明をし理解していただけているが、地域の関係者とは支援に取り組めていない	重度化については契約時に家族に説明し了承を得ています。医療体制は整っていますが、対象となる人はいないため看取りの実績はありません。事業所での生活が困難となった際には適切な施設や医療機関の紹介等、速やかに対応しています。	入居期間が長くなることで重度化も予想されます。事業所での看取りについて改めて職員間で話し合いを進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練、研修を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、地域の方との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、どの職員も初期消火、通報、避難誘導を体験できるように計画しています。地域防災訓練には利用者全員で指定緊急避難場所まで歩いて出向き、点呼に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは丁寧に、プライバシーを守り対応している	利用者間のトラブルでは関心の焦点を探り、他に集中できる作業や会話に誘うなど、職員が間に入ることで大きなトラブルを未然に防いでいます。新人研修には「職業倫理」として不適切ケアを学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活スタイルはあるが、個々のペースも尊重し、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髪型などを本人に選択していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、思うように調理ができていない。片付けは、出来る方に無理のない範囲で行っていただいている	お正月や桃の節句、端午の節句等には行事食を取り入れ、家庭的なメニューを手作りで提供しています。近隣から差し入れられた食材の下ごしらえには、慣れた手つきで手早く作業する利用者の姿が光ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず誘導し、ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報を共有し、自立に向けて支援している できる限り、トイレで排泄ができるよう支援している	肌触りを優先し、日中は全員が布パンツで過ごしており、紙パンツによるムレや痒みもありません。排泄チェック表で排泄パターンを把握して声かけし、昼夜ともにトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方に対してのみ、利用者のタイミングに合わせて入浴している	週2回を目安に入浴し、柚子や菖蒲、入浴剤を入れて湯船にのんびり浸かると話も弾み、日頃聞けない思い出話が飛び出します。拒否があれば時間を置いて入浴に誘い、気持ちよく入れるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部の職員のみ努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出できない分、室内で楽しめる様、努めている 個々の好みに応じ嗜好品なども対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は控えているが、施設周りの散歩、家族の面会は支援している	周辺の公園や寺までの散歩を中心に外出支援をしています。一人ひとりの歩行可能距離や速度に合わせてできるだけ毎日出かけ、季節の移り変わりを体感できるようにしています。感染対策を講じて4月には小堤公園の桜を久しぶりに満喫しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物とられ、紛失を避けるため、所持は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる工夫をしている	お雛様や鯉のぼり、七夕の笹飾り等のお目見えに合わせ、ぬり絵やちぎり絵など四季折々の利用者の作品を掲示してリビングが彩られ、利用者と職員で植えた鉢植えの花は玄関から中庭に移し替えて、見る人の目を楽しませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している	契約時には馴染みある家具や物品が持ち込めることを説明し、位牌や遺影を持参する人もいます。ベッドの位置を調整し、夜間起きた時にも混乱がないように照明を工夫するなど安全面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活ができる工夫をしている		